

# 第71回景気動向調査 (2021年上半期)

マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)  
2021年3月

注1: JACTIM会員企業552社に、2021年1月20日～2月19日にかけて、2021年上半期の景気動向を中心に質問した内容について集計している。221社(内訳: 製造業132社・59.7%、非製造業89社・40.3%)から回答を得た。回答率は40.0%となる。

注2: Web上での調査票配布・回収を行っている。

注3: マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)では、年に2回(上半期と下半期)にJACTIM会員企業に景気動向調査を実施している。

# 2021年上半期の景気動向【要旨】

- 業況判断DIは、▲11.8ポイントと、COVID-19前を上回る水準まで改善。下期予測は+5.0ポイントと、さらなる改善が見込まれる。
- 従業員数DIは、▲1.8ポイントと4期ぶりの不足。下期も▲8.6ポイントの予測。
- 需給判断DIも、▲1.4ポイントと大幅に改善。下期も▲0.5ポイントの予測。
- 下期まで改善傾向が続くか、感染収束に伴う経済活動の本格化が鍵。

## (1) 業況判断DIは、COVID-19前の水準以上に回復

今期は▲11.8ポイントと、2018年下期から6期連続のマイナスであったが、COVID-19前を上回る水準まで回復。本調査開始以来の最低値だった前回水準からの反動もあると考えられる。下期は今期比16.8ポイント増の+5.0ポイントと、プラスに転じる予測。

## (2) 従業員数DIは、4期ぶりに不足に転じた

2019年下期にリーマンショック以降初めて+1.4ポイントの過剰に転じ、それ以降過剰トレンドが継続していたものの、今期は▲1.8ポイントと不足に転じた。下期も▲8.6ポイントと従業員数は不足気味となる予測。

## (3) 業界の需給判断DIも、需要回復により改善

2012年上期(▲37.7ポイント)以来、最低となる▲34.8ポイントを記録した前回(2020年下期)から大幅に改善し、▲1.4ポイントだった。COVID-19における経済活動の制限が緩和されたことによる需要回復があると見られ、下期も▲0.5ポイントとさらに改善する見通し。

## (4) COVID-19による景況感の悪化を脱するか

COVID-19に伴う影響もあり、ほとんどのDIが悪化した前回調査から一転して、全てのDIにおいて大幅な改善が見られた。COVID-19における経済活動の制限が最悪だったともいえる前期からの反動もあると見られ、下期も改善が続くかは、感染の一定程度の収束による経済活動の本格化が鍵。

業況判断DIの推移

期間	回答社数	①良い		②かわらない		③悪い		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
18年上期	182	38	20.9	119	65.4	25	13.7	7.1
18年下期	250	47	18.8	143	57.2	60	24.0	-5.2
19年上期	285	43	15.1	145	50.9	97	34.0	-18.9
19年下期	291	39	13.4	126	43.3	126	43.3	-29.9
20年上期	160	21	13.1	72	45.0	67	41.9	-28.8
20年下期	178	17	9.6	41	23.0	120	67.4	-57.9
21年上期	221	53	24.0	89	40.3	79	35.7	-11.8
21年下期予測*	221	66	29.9	100	45.2	55	24.9	5.0

従業員数DIの推移

期間	回答社数	①過剰		②適正		③不足		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
18年上期	182	15	8.2	129	70.9	38	20.9	-12.6
18年下期	251	19	7.6	194	77.3	38	15.1	-7.6
19年上期	283	35	12.4	208	73.5	40	14.1	-1.8
19年下期	287	53	18.5	191	66.6	49	17.1	1.4
20年上期	160	30	18.8	112	70.0	18	11.3	7.5
20年下期	178	50	28.1	119	66.9	9	5.1	23.0
21年上期	221	29	13.1	159	71.9	33	14.9	-1.8
21年下期予測*	221	23	10.4	156	70.6	42	19.0	-8.6

需給判断DIの推移

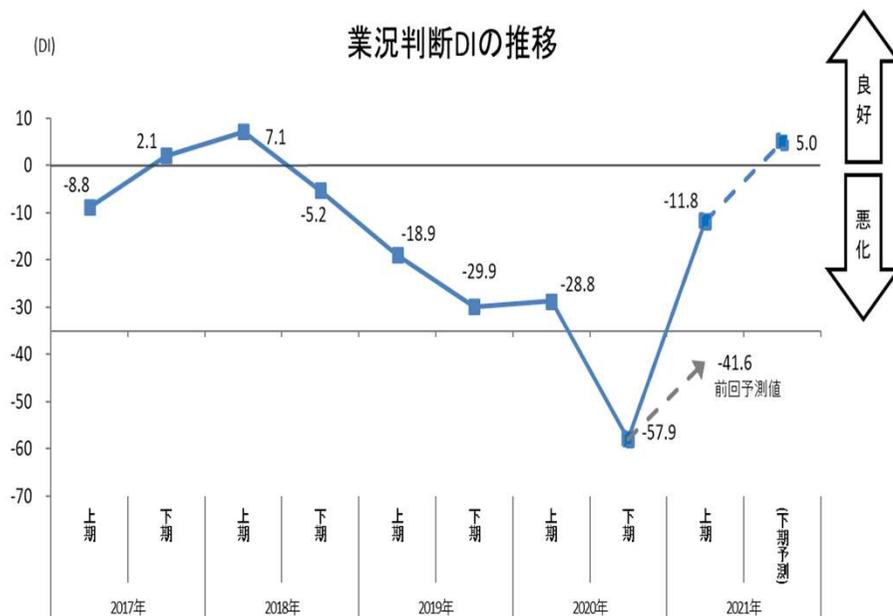
期間	回答社数	①需要超過		②均衡		③供給超過		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
18年上期	174	22	12.6	118	67.8	34	19.5	-6.9
18年下期	236	30	12.7	157	66.5	49	20.8	-8.1
19年上期	270	16	5.9	170	63.0	84	31.1	-25.2
19年下期	269	11	4.1	158	58.7	100	37.2	-33.1
20年上期	160	10	6.3	95	59.4	55	34.4	-28.1
20年下期	178	12	6.7	92	51.7	74	41.6	-34.8
21年上期	221	46	20.8	126	57.0	49	22.2	-1.4
21年下期予測*	221	41	18.6	138	62.4	42	19.0	-0.5

注: 各DI値 = 「①」とした企業数 - 「③」とした企業数 / (回答企業数) × 100

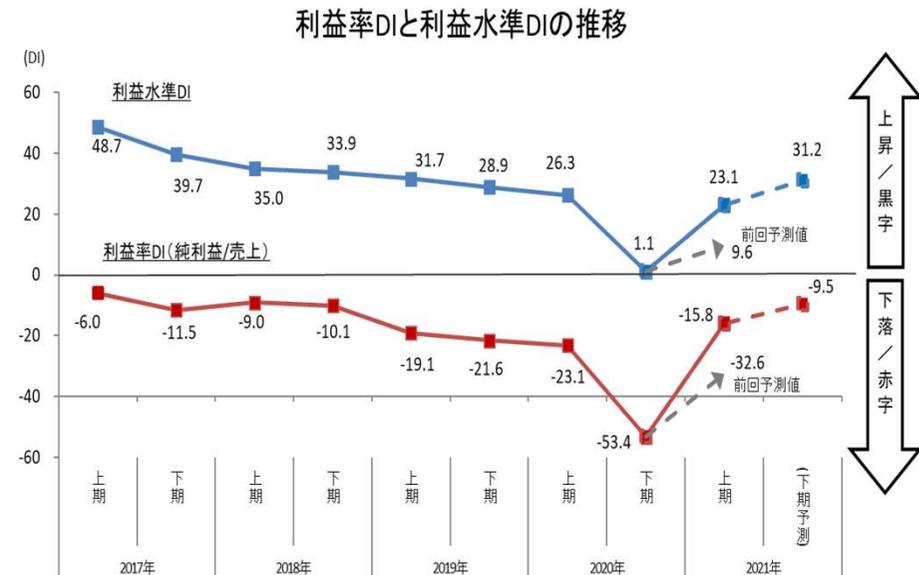
\*2021年上半期アンケートでの2021年下半期の予測についての設問に対する回答

# 1. 2021年上半期の景況(業況、利益状況)

- 業況判断DIは▲11.8ポイントと6期連続のマイナスとなったが、本調査開始以来の最低水準となった前回から大幅改善した。下期は今期比16.8ポイント改善の+5.0ポイント予測と、COVID-19に起因した景況感の悪化を脱する見通し。
- 利益率DI及び利益水準DIについては、前回予測値をそれぞれ10ポイント以上上回る結果で、業況判断DIと同様、下期は更なる改善を見込む。



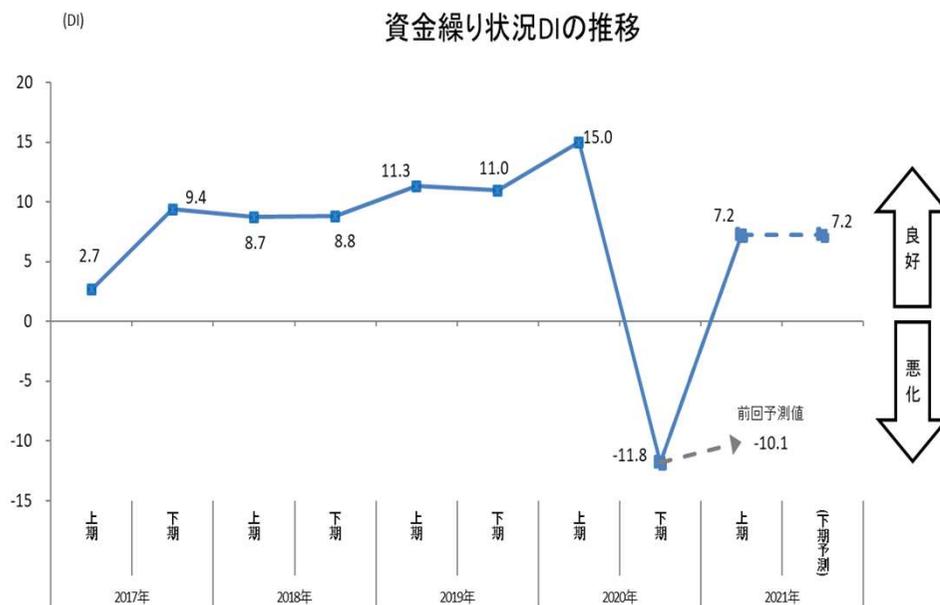
注: 業況判断DI=(「よい」とした企業数-「悪い」とした企業数)/(回答企業数)×100



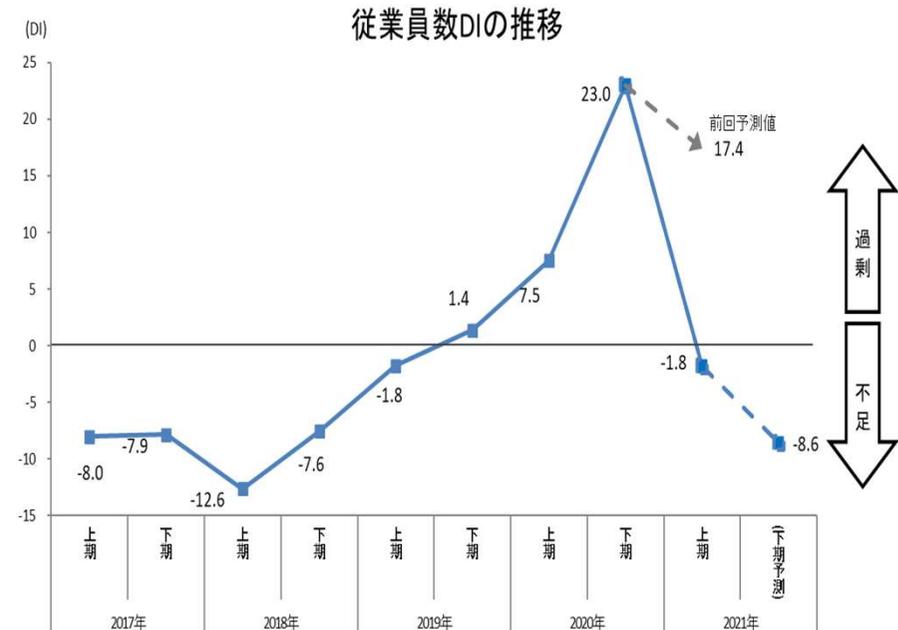
注(1): 利益率DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数)×100  
 注(2): 利益水準DI=(「黒字」とした企業数-「赤字」とした企業数)/(回答企業数)×100

## 2. 2021年上半期の景況(資金繰り、従業員数)

- 資金繰り状況DIについては、前回値▲11.8ポイント及び予測値▲10.1ポイントから大きく好転し、+7.2ポイントとなった。下期も+7.2ポイントと状況改善の継続が見込まれる。
- 従業員DIは、前回値23.0ポイント及び前回予測値17.4ポイントと急激な過剰トレンドにあったが、4期ぶりに▲1.8ポイントの不足となった。下期も引き続き▲8.6ポイントの予測値で、さらなる不足が見込まれている。



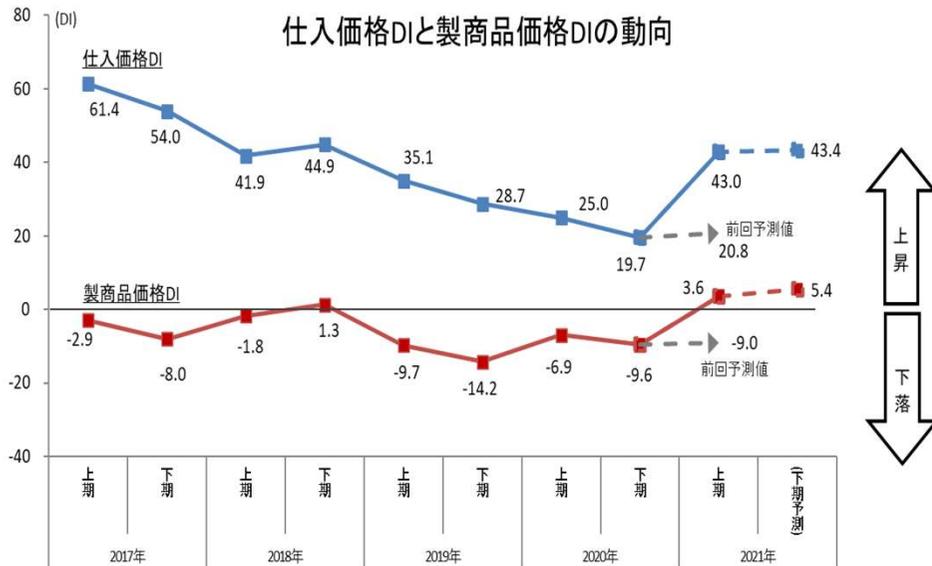
注: 資金繰りDI = (「楽」とした企業数 - 「苦しい」とした企業数) / (回答企業数) \* 100



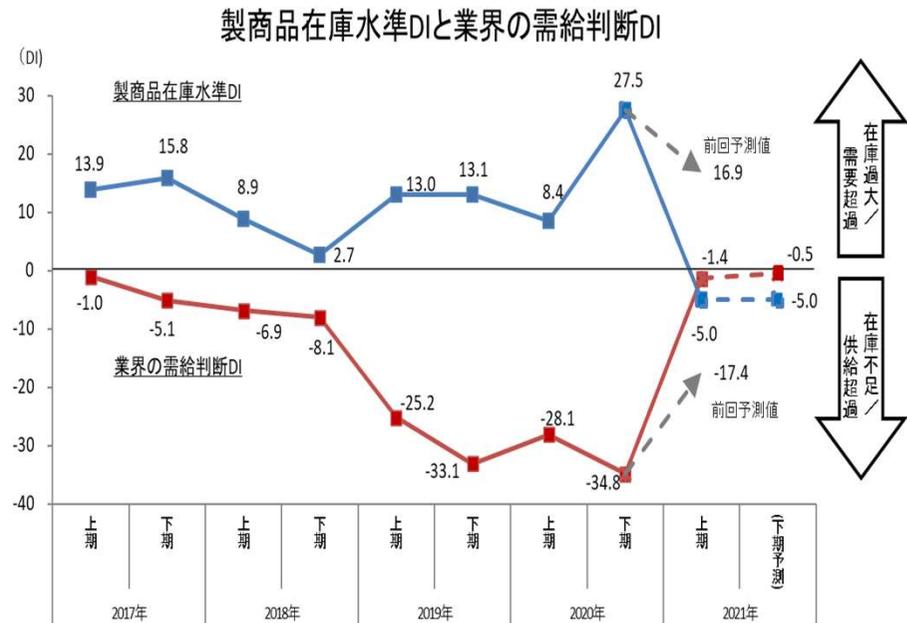
注: 従業員数DI = (「過剰」とした企業数 - 「不足」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

# 3. 製造事業者の景況

- 仕入価格DIは、前期予測値+20.8ポイントを大きく上回る+43.0ポイント、製商品価格DIも前回値から13ポイント超上昇し、+3.6ポイントとプラスに転じた。それぞれ4期連続の下落・マイナスから一転して上昇傾向となり、下期は現状維持の見込み
- 製商品在庫水準DI及び需給判断DIでは、COVID-19における経済活動の制限緩和によるとみられる需要回復に伴い、在庫過多が一掃、わずかな不足に転じた。下期も需要は回復傾向にあり、在庫不足の状況が続くことが見込まれる。



注(1): 仕入価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数) \* 100  
 注(2): 製商品価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数) \* 100



注(1): 製商品在庫水準DI=(「過大」とした企業数-「不足」とした企業数)/(回答企業数) \* 100  
 注(2): 業界の需給判断DI=(「需要超過」とした企業数-「供給超過」とした企業数)/(回答企業数) \* 100

## 4. 業績に影響を与える要因

- 前回調査に続き、COVID-19が業績に最も影響を与える要因となっているものの、その割合は約8ポイント減少した。
- マレーシア経済動向、為替動向は、例年の調査と同様に今回も高い水準となった。加えて中国経済動向、米中貿易摩擦が微増した。

業績に特に影響を与える因子

